

5 青少年教育指導者等の養成および資質向上に関する事業

イ ボランティアの養成・研修事業

Ｃ ボランティアによる自主企画事業

大学生のためのボランティア活動推進事業
「自主企画事業支援プロジェクト」
～ドキドキ！わくわく！ 真冬の探検隊～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和4年12月17日（土）～18日（日） 1泊2日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 小学4～6年生 計19名（男性8名、女性11名）

〔担当職員〕 葛島 隆文、貞方 貴衣、稲原 諒馬

1) 趣旨

新しく出会った仲間と協力して行う自然体験活動を通して、仲間を大切にすることを育む。

2) 目標

友達がいるからできる活動があることを知る。
新しい友達を作るために必要なことを考える。

3) プログラム

12月17日（土）	12月18日（日）
10：00 受付(本館ロビー)[写真①]	6：30 起床
10：30 オープニング[写真②] アイスブレイク[写真③]	7：15 朝のつどい
11：30 昼食（持参）	7：30 朝食（レストラン）
12：00 ベッドメイキング	9：00 オリエンテーリング （昼食 弁当）
13：00 自然ゲーム(竹を使った遊び)	14：00 ふりかえり
14：00 野外炊事（豚汁）[写真④]	14：30 クロージング(スライドショー)
18：15 キャンプファイヤー[写真⑤]	15：00 解散
19：30 ふりかえり	
20：30 入浴	
22：00 就寝	

4) 事業展開

① 受付(本館ロビー)



子ども達にむけて、ウェルカムボードを作成しました。タラッキー（本所マスコットキャラクター）、を入れることで可愛く仕上がりました。

② オープニング



オープニングでは、今回のキャンプにおける目当てを視覚的にわかるようにしました。活動における目当てを確認できたことで、意識付けができ安心して取り組むことができました。

③ アイスブレイク



名前を覚えるゲームやじゃんけん等、仲間づくりを行いました。学年、性別に関係なく活動することができ、子ども達の表情が和らいでいきました。

④ 野外炊事



班ごとに協力して、豚汁を作りました。班の中で、火つけ、調理、食器などの係を決め、誰か一人でもいなかったら夕食ができなかったことを子ども達は話していました。

⑤ キャンプファイヤー



吹雪になり安全を考慮して途中で活動を中止しました。安全管理上リスクが大きいことをボランティア同士で話し合い、活動中止決定ができました。

5) 評価

①アンケート結果

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

②参加者の声（アンケートから一部抜粋）

- ・ 班の仲間と一緒に話をすることが楽しかった。
- ・ 時間を意識しながら活動することができた。
- ・ 初めて行う活動がたくさんあったので良かった。
- ・ また自然の家での活動に参加したい。

6) 成果と課題

①成果

- ・ 違う大学の学生が、自分たちでスケジュールを立て、綿密な企画を練りながらキャンプを進めることができた。
- ・ けがなく、最後まで事業を運営することができた。
- ・ 新規にボランティア登録を行った学生も今回のキャンプに参加できたことで、今後ボランティア活動への意欲を高め、指導に自信を持つことができた。
- ・ 悪天候であったが、安全管理に注意しながら無理なく活動を進めることができた。

②課題

- ・ 雪の予報が発表されていた。雨のプログラムの準備はしていたが、雪の中での活動も想定する必要があった。
- ・ 夜の就寝を心配する声が多く、眠れない参加者が数名いた。
- ・ 子供への介入の度合いが多いという反省があり、子供が自分で考えて行動できるように指導をしていく必要がある。



目標4 質の高い教育をみんなに

非日常生活での、自然体験活動により主体性と実践力を養います。



目標16 平和と公正をすべての人に

集団生活や自然体験活動を通じて、仲間の気持ちを考え、安心して活動できる関係を構築します。